第１学年１組　国語科学習指導案

指導者　教諭　秋山　裕子

| 本時の視点 | 一人一人が読み取ったことを生き生きと表現できる場の工夫 |
|---|---|

１　単元名　　こえにだしてよもう　「くじらぐも」

２　単元の目標

○　物語に興味をもち，場面の様子を想像したり，声にだして読んだりしながら楽しんで読もうとしている。（関心・意欲・態度）

○　言葉や挿絵をもとにしながら場面を想像豊かに楽しんで読むことができる。（読むこと）

○　くじらぐもへの手紙を書いたり，くじらぐもの続き話を想像して書いたりすることができる。（書くこと）

○　新しい漢字や片仮名を正しく読んだり，言葉の意味を知ったりすることができる。（言葉についての知識・理解・技能）

３　単元について

（１）教材観

この作品は，空に現れた「くじらぐも」と子どもたちとの心温まる交流を描いた内容である。児童たちは，「くじらぐも」の内容設定が自分たちの生活と共通項が多いため，自分たちの身近な日常生活の中から自然に空想の世界に入り，主人公のくじらぐもや子どもたちと思いっきり空想の世界で遊ぶことができると考える。

本文には会話文や動きを示す言葉が多いので，読み取ったことを生かした音読や動作化が行えると考える。そういう活動を通して，「くじらぐも」と子どもたちそして子どもたち同士の温かい心の触れ合いを十分に味わわせたい。また自分たちが想像したことを友達と交流し合い想像の世界を広げていきたい。そしてこれらのことを通して文字と挿絵を手がかりにして読むという「読むこと」の学習の本質に迫っていきたい。

（２）児童観　（男子１８名　女子１０名　合計２８名）

本を読むことや読み聞かせが大好きな子どもたちである。４月から読書活動を行っているが５０冊以上読んでいる児童が半数以上いる。音読は，毎日家庭学習として行い，本文の暗唱にも取り組んでいる。４月当初１文字１文字たどり読みだった数名の児童も少しずつではあるが,言葉のまとまりを考えて読めるようになったり，はっきりとした発音で読めるようになってきたりしている。前単元の「おおきなかぶ」では，音読を中心にしながらの登場人物の気持ちを吹き出しに書いたり，グループごとに簡単な劇をしたりしながら楽しく活動できた。しかし音読は楽しくできるのだが言葉から気持ちを想像し，そこから読み取ったことを考えながら音読することはまだ十分ではない。発表に関しては，「まちがいはありがとう」を合言葉に自分から発言することを大切にしてきた。発表に対して苦手意識のある児童も少しずつできるようになってきた。しかし他の友達の考えを聞く意識が弱い。発表と話を聞くことは相互関係にあると考える。発表するときは，必ず友達の考えと比べていうことを意識づけている。

（３）指導観

本教材では，内容を読み取る時には，物語中のくじらぐもや子どもたちの行動や会話そして挿絵を大切にしていきたい。行動を表す文では，「くじらは」「みんなは」という主語に注目させながら内容を正しく読み取らせたい。「くじらも～しました。」という文型のくり返しでは，助詞の「～も」の使い方に着目させ，子どもたちの様子を見て真似をするユーモラスなくじらぐもについて感じ取らせたい。またくり返しによるリズミカルな調子を音読で表現したり動作化を取り入れたりしながら読みを深めていきたい。会話文では，誰が話した文なのかを確認し，物語の中の子どもやくじらぐもになりきって吹き出しに気持ちを書いたり，友だちと発表しあったりすることを通して，想像を膨らませながら楽しく読みを進めていきたい。

４　指導計画（学習計画）（１１時間扱い）

| 主な学習内容 | 主な評価 |
|---|---|
| 1 話のあらすじをつかみ，好きな場面やおもしろいとおもうところを発表する。② | ・想像を広げてお話を読もうとしている。（関心・意欲・態度） |
| 2 くもと子どもたちの出会いの様子を読み取る。 | ・場面ごとに登場人物の様子や気持を想像して，イメージを豊かに膨らませながら読むことができる。（読むこと） |
| 3 くもと子どもたちのやりとりの様子を読み取る | ・場面ごとに言葉や文としてのまとまりや内容，呼びかける声の大きさなどを考えながら声に出して読むことができる。（読むこと） |
| 4 くもに飛び乗ろうとする子どもたちとそれを応援するくもの様子を読み取る。（本時） | ・読み取ったことをもとにしてくじらぐもへ手紙を書くことができる。（書くこと） |
| 5 くもに乗って空を旅する子どもたちの様子や気持ちを想像して読み取る。 | ・進んで話を想像し考えようとしている。（関心・意欲・態度） |
| 6 くもと別れる時の様子を読み取る。 | |
| 7 今まで読みとったことをもとにしてくじらぐもへ手紙を書く。 | |
| 8 くじらぐもの続き話を想像豊かに書く。③ | |

5　本時の学習

（１）目標

くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちとそれを応援するくじらぐもの様子やくじらぐもの飛び乗った時の子どもたちの気持ちを想像し，生き生きと表現することができる。

（２）準備・資料

掲示用教材文，くじらぐもの絵，子どもたちの顔の絵，吹き出し黒板
ホワイトボード黒板

（３）展　開

| 学 習 活 動 | 指導上の留意点・評価 |
|---|---|
| 1　前時の学習を振り返る。 | ・ 前時の「男の子も女の子もはりきりました。」という言葉や挿絵を提示し，雲に飛び乗ろうとしている子どもたちの今の「乗りたいなあ」という気持ちを想起させたい。 |
| 2　本時の学習課題を確認する。<br>・学習課題を確認する。<br>くじらぐもにとびのれたとき，こどもたちは，どんなきもちだったろう。<br>・学習場面を（ｐ８～ｐ９）確認する。（一斉読み） | |
| 3　くじらぐもと子どもたちの様子や気持ちを読み取る。<br>（１）子どもたちとくじらぐもが言った言葉を見つけ発表する。 | ・ くじらぐもの会話文には赤線，子どもたちのの会話文には青線を引き，主語をしっかりと区別できるようにする。<br>・ 「手をつないで」，「まるいわになる」，「ジャンプする」，「やっと三十センチぐらい」，「やっと五十センチぐらい」の５つの言葉を確認することとなぜそうしたのかそうなったのか理由を押さえたい。 |
| （２）子どもたちとくじらぐもが，したことを見つけ発表する。 | ・ 今までは，子どもたちの言葉を繰り返していただけのくじらぐもが自分の言葉で言っていることに気づかせくじらぐもの気持ちを想像させたい。<br>・ くじらぐもと子どもたちの気持ちの変化を顔の表情の絵カードで表す。 |
| （３）自分たちもくじらぐもに乗れるように音読や動作化してみる。 | ・ くじらぐもと子どもたちの位置関係を押さえる。同じせりふでも気持ちが違うことに気づかせ，違いが音読に表れるよう支援する。<br>・ 三十センチ，五十センチを実際に視覚でとらえさせたり動作化をしたりすることを通して，くじらぐもに応援されながら頑張っている子どもたちの様子や気持ちを想像させる。 |
| （４）くじらぐもに乗れたときの気持ちをワークシートに書く。 | ・ 模造紙のくじらぐもを提示し，自分の人形を思い思いの場所にはることを通して，全員がくじらぐもに乗れたというイメージをつかめるように支援する。 |
| （５）発表しあう。 | ・ うまく表現できない児童には，挿絵の表情をヒントにしながら短くてもよいから自分の言葉で書いてみるように支援する。<br>評　くじらぐもに乗った時の気持ちを想像することができたか。<br>（ワークシート・発表・音読） |
| 4　本時のまとめをする。<br>・学習したことを思い浮かべながら学習場面を音読する。 | ・ 全員で役割読みを行い，本時のまとめとし，次時への期待感を高めたい。 |
| 5　次時の学習内容を知る。<br>くじらぐもにのってこどもたちはこれからどこへいくのだろう。 | |

# 第1学年1組　国語科指導計画案

指導者　教諭　秋山裕子

## 板書構成

10/20

三のばめん

くじらぐもにとびのれたとき

◎子どもたちは　どんなきもちだったろう。

くじらぐも

こどもたち

○手をつないで

○まるいわになると

○ジャンプしました。

「天までとどけ、一、二、三。」

○やっと三十センチぐらい

「もっとたかく。もっとたかく。」

おうえんしました。

天までとどけ、一、二、三

○五十センチぐらい

「もっとたかく。もっとたかく。」

おうえんしました。

そのときです。

「天までとどけ、一、二、三。」

## 本時の目標

くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちとそれを応援するくじらぐもの様子やくじらぐもに飛び乗った時の気持ちを想像し，生き生きと表現することができる。

## 活動の流れ

1　前時の学習を振り返る。
2　本時の学習課題を確認する。

くじらぐもにのれたときのきもちをかんがえよう。

3　くじらぐもと子どもたちの様子や気持ちを読み取る。
（1）子どもたちとくじらぐもが言った言葉を見つけ発表する。
（2）子どもたちとくじらぐもがしたことを見つけ発表する。
（3）自分たちもくじらぐもに乗れるように音読や動作化をしてみる。
（4）くじらぐもに乗った時の気持ちをワークシートに書く。
（5）発表しあう。

4　本時のまとめをする。

5　次時の学習内容を知る。

## ハンバンを（３）

名前（　　）

ハンバンを見て、思ったことや感じたことを書こう。





ひみつをおしえてください